

# スウェーデン高校課程地理教科書の研究

— 「地理的研究」の考察 —

A Study of Swedish High School Geography Textbooks  
— A discussion of Geographical Studies —

中山 由梨亜\* 薬袋 奈美子\*\*  
Yuria NAKAYAMA Namiko MINAI

**要約** 持続可能なまちづくりや防災教育につながる地理の学びを住教育の一つとして着目し、地理教育におけるシティズンシップ教育の可能性を探ることを目的とする。本研究では、スウェーデンの教科書を対象とし、とりわけ世界の事例を用いた研究課題について構成と設問の分析を行った。その結果、一つの課題で教科書内のほぼ全ての内容を踏まえて回答することが求められる設問もあることが確認できた。他の設問も含め、教科書全体で学んだ知識に基づいて実社会で起こったことに対する判断をさせる設問が多く、社会課題に対して教科書の学びを実践的に使って考える機会を多く与えていることが明らかになった。スウェーデンでは、社会を動かす市民の一員であるという意識を持たせることで、能動的な社会参画を促すシティズンシップ教育に寄与する学びが、地理教育に取り組みされていることが分かった。

**キーワード**：シティズンシップ教育、地理教育、住教育、まちづくり

**Abstract** Learning geography leads to sustainable community development and disaster prevention education, which is a goal of housing education. Focusing on that topic, the aim of the current study was to explore the possibility of citizenship education in geography education. This study used Swedish textbooks to analyze the composition of and questions about research topics involving examples from around the world. Results verified that there are questions on a single topic that require an answer based on almost all of the material in the textbook. Results revealed that many of the questions include other questions and have students judge what happened in the real world based on knowledge they learned from the textbook as a whole, giving them many opportunities to think practically about social issues using what they have learned from the textbook. Results revealed that learning that contributes to citizenship education, which promotes active participation in society by making children aware that they are citizens who drive society, is being addressed in geography education in Sweden.

**Key words** : Citizenship education, Geography education, Residential education, Town planning

## 1. はじめに

2022年度から高等学校では「地理総合」が必修

科目となった。同年度から実施される学習指導要領では社会科全体の教科目標を「地理や歴史に関わる事象について、より良い社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う」と定めており、「地理総合」の科目目標の一つには「世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解する」と定めている。地理教育を持続可能なまちづくりや防災教育に密接に関わる住教育

---

\* 家政学研究科住居学専攻  
Graduate School of Home Economics,  
Division of Housing and Architecture  
\*\* 住居学科  
Department of Housing and Architecture

の一つとして注目し、地理教育におけるシティズンシップ教育の可能性を探る。

本研究では、単に知識を持つだけでなく幅広い知識を応用して多角的な考え方を身につけ、市民の一員として社会課題に取り組む力をシティズンシップ力と位置付け<sup>1</sup>、シティズンシップ教育を先進的に行うスウェーデンの高校課程の地理教科書を対象に、さまざまな世界の事例を研究する課題が集められた章の分析を行った。対象とする教科書は「GEO – geografi för gymnasiet (Gleerups Utbildning AB, 2012年)」<sup>2</sup>を分析に用いた。同書と日本の高等学校地理 A の教科書(学習指導要領改訂前)<sup>3</sup>の都市計画に関連する箇所と、これまでに地形と人々の生活の関わりに関連する箇所について比較分析を行った結果、本文の文章量と設問数ともに日本の教科書より多く、設問の内容においても能動的な社会参画を働かせる内容が多いことを明らかにした<sup>4</sup>。本稿ではこの結果を踏まえ、設問によって教科書本文の学びがどのようにシティズンシップ力を育む学びに寄与しているかを、さらに詳細に明らかにすることにした。

## 2. 教科書の概要

### 2-1. 教科書全体の構成

分析対象の教科書では Table 1 に示す全 13 章から構成され、自然環境、地図、地形、人口、食糧、生産、観光、都市、地域計画などの地理に関連するテーマが説明されている。各章は、本文としての用語の説明や社会課題等の説明に加え、コラム的に様々な国での関連した事柄について、具体事例を挙げて説明をしている。章末には設問を掲載している。

そして教科書の末尾には地理的研究と題した章が置かれ、13 個の研究課題として世界の事例を題材にそれぞれ概要説明と設問が掲載されている。本研究では地理的研究に着目して構成と設問について分析を行う。

### 2-2. 「地理的研究」の概要

#### (1) 構成と序章

地理的研究は 13 の課題で構成されている。1 つ目の課題「地理学における自身の作業」では、地理学の調査分析における基本的な調査方法を「地理的知識」「質問・方法・回答」「作業の流れと概要」の 3 つの節に分けて説明している。調査分析を始める

にあたり、地理的な知識を得た上で最初に疑問点を課題として設定し、仮説を立て、次にアンケート調査を行い、その結果から主張を示すこと。主張や提言をする際には必ず出典を明記することなど、研究や調査の進め方を基本的な部分から丁寧に説明している。1 つ目の課題で記載された調査分析方法を実践的に学ぶ機会として、2 つ目以降の課題では世界の事例を題材に包括的な学びを得られる内容や、さまざまな事例を考察したプロセスを踏まえて自身の暮らす地域の考察をする設問を設けている。<sup>4</sup>

### (2) 地図作業による学習

2 節「ヨーロッパの農業地域-地図の練習」ではヨーロッパの岩盤、植生、土壌、年間降水量、気候に関するテーマ別の地図を使用して農業に適した条件の土地を特定する練習ができる設問が設定されている。この章では最初に農業に適した土地や気候がどのような条件であるかを 300 語程度で説明しており、続いてテーマ別の地図を使用して Table 2 に示すステップ 1 から 4 の作業を実際のヨーロッパの地図に行い、農業に適した土地の策定を練習できるようになっている。地理の学びの基本である地図とじっくり向き合うという基本の姿勢を最初の設問で取り組むことができるようになっている。

Table 2 Steps in map practice

ステップ 1	堆積岩盤(a)、落葉樹林と草原(b)、茶と黒の土壌(c)の 3 つの領域にマーキングする。
ステップ 2	マーキングした領域(a,b,c)を色で塗り分ける。(a+b)、(a+c)、(b+c)もそれぞれ他の色で塗り分け、全ての領域が一致する範囲(a+b+c)も他の色を塗る。
ステップ 3	領域(a+b+c)に該当する国と地域に名前を付ける。
ステップ 4	領域(a+b+c)内で年間降水量 500mm 以上かつ沿岸気候の範囲をマーキングする。

## 3. 包括的学びのある研究課題

### 3-1. 課題の概要

3 節「キルナ-街を動かせますか?」では、スウェーデン最北端の鉱山地域にある都市キルナを事例として、鉱山の採掘活動拡大に伴い都市を移転する計画を立てた際に考慮すべき項目を、8 つの設問で順を追って理解させる構造になっている。キルナは、スウェーデン最大の鉱山を拠点に開発された町で、1890 年から始まった採掘により都市の崩落の危険が指摘され、採掘された部分の上にある町、町全体を移転することになった。2007 年に一度移転

Table 1 Table of contents and keywords from textbooks

目次と各章のタイトル	各章のキーワード
A 人間、資源、環境 P.8-32	持続可能な開発・資源・再生不可能/再生可能/条件付き再生可能資源・有限のエネルギー源・化石燃料・再生可能エネルギー源・バイオ燃料・エコロジカルフットプリント・先進国・発展途上国・NIC(新興工業国)・LDC(後発開発途上国)・第三世界・BNP/人・HDI(人間開発指数)・リオ宣言・アジェンダ21・京都協定・ミレニアム宣言
B マップ、GIS P.34-50	スケール・レベルカーブ・円筒投影・円錐投影・平面投影・垂直投影・経度・緯度・地形図・主題図・コロプレスマップ・GIS・メンタルマップ・リモートセンシング
C 地球、地形、風景 P.52-104	地球の構造 [リソースウェア・水圏・大気・生物圏・アセノスフィア・対流・海底地殻・大陸地殻・沈下・収束・プレートテクトニクス] 地球の内力 [内因性プロセス・断層・地塁・地溝・地震・リヒタースケール(マグニチュード)・ホットスポット・火山・溶岩] 地球の外力 [外因性プロセス・風化・ベネプラン(岩石の水平な侵食面)・摩耗・侵食] 岩盤 [マグマ・火成岩・堆積岩・変成岩・鉱物・地質時代・地質期間(単位)・原始岩・カンプロシルル期の岩石] 土壌 [鉱物性土壌・有機土壌・土] 氷が風景を形作った [氷河・間氷期・ラウンドホブ(氷床で削られた石や岩)・U字谷・モレーン・小石の尾根・「Högsta kustlinjen」(過去最高の平均海面水位)]
D 人口 P.106-138	出生率・死亡率・自然増加・総人口増加・純移動数・出生率と再生産数・累進人口ピラミッド・定常人口ピラミッド・怪奇時効ピラミッド・人口転換・移住のプッシュプルモデル・転勤・ゲストワーカー・人身売買・頭脳流出・頭脳獲得・難民条約・事実上の難民・マルサスの人口論・ボセルプの人口論・性と生殖に関する健康
E 天気、気候、植生 P.140-172	対流圏・成層圏・電離圏・天頂・コリオリの力・熱帯収束帯・貿易風・極前線・モンスーン・対流・露点・断熱温度変化・積雲・巻雲・山岳降水量・ジェット気流・竜巻・サイクロン・エルニーニョ・気候帯・ツンドラ・マッキ・サバンナ・マングローブ
F 水と海 P.174-196	分水界・流域・地表水・土壌水・地下水・自噴・乾燥農業・灌漑・大陸棚・海溝・メキシコ湾流・津波・富栄養化
G 私たちの食べ物 P.198-222	フードマイル・仮想水・大規模な集約農業・熱帯雨林地域の焼き払いと輪作・プランテーション・稲作・穀物栽培・混合農業・肉と動物の生産・オアシス農業と冬に雨の多い気候での農業・緑の革命と GMO(遺伝子組み換え作物)
H 生産と仕事 P.224-246	ビジネスライフ・融合・第一次/第二次/第三次および第四次産業・先進国・発展途上国・NIC・ロケーション要因・循環型社会・ウェーバーのローカリゼーション理論・製品サイクル・マイクロクレジット・起業家・イノベーションアイランド・グローバル企業
I 輸送と貿易 P.248-264	交通手段・コミュニケーション・リンクとノード・インフラストラクチャー・コンテナ・持続可能な開発・石油ピーク・IT・イノベーションの普及・断層的拡散・貿易・関税同盟・貿易圏
J 観光 P.266-282	ビジネスツーリズム・シティブレイク(都市滞在型休暇)・観光商品ライフサイクル・マスツーリズム・容量制限/制御制限(ビザ)/接続制限・持続可能な観光・エコツーリズム
K 都市 P.284-314	都市化・都市のエコロジカル・フットプリント・持続可能な都市・ロケーションメリット・提供する能力・都市化の程度・「Zwischenstadt」(間の都市)・メガシティ・メガロポリス(都市景観)・スラムとスラム街・公益事業・ポイントハウス・モダニズムと機能主義・ABC 郊外・ミリオンプログラム・分離とゲッター・ゲートコミュニティ・ゾーンモデル/セクターモデル/マルチコアモデル・CBD(中央ビジネス地区)・昼夜人口・有機的パターン・グリッドパターン・放射状および斜めのパターン・都市のシルエット(スカイライン)・ランクサイズルール・中心地理論
L 地域とコミュニティの計画 P.316-334	均質領域・機能領域・北部針葉樹林地帯・オレサンド地方・ストックホルムとメーラー地方・ゾーン・風景・国と州・コンパクト、細長い断片化された状態・自然限界・争われた国境・文明・地方主義・地域主義・ナショナリズム・ガイア・独占を計画する・空間計画・セクター計画・概要計画・詳細計画・建築許可
M 地理的研究 P.336-357	地理学における自身の仕事・ヨーロッパの農業地域-地図の練習・キルナ-街を動かせますか?・パナマとスエズ運河-2つの重要な近道・アラブ首長国連邦-石油がどのように社会を根本的に変えたのか・バレンツ地域-地域を作成する試み・テーマ別マップの操作・ムンバイ「デンバーエクササイズ」・薬の生産、流通、消費・スウェーデンのビジネスはどのくらいスウェーデンか?・気候変動とインフラ・あなたの故郷はいつ「生まれた」のですか?・空の旅と持続可能な開発

Table 3 Questions from and a discussion of Geographical Studies

分野	設問文	教科書本文中で 関連する内容	設問の考察
1 地質学	鉄鉱石はどこでどのように採掘されますか？なぜ亀裂や沈下が発生するのですか？	C「地球、地形、気候」 ・自然発生による地盤の沈下、亀裂が生じる仕組み ・鉱石が生成される仕組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地球、地形、風景」の章の設問（本文 104 頁）に鉄鉱石の経済的重要性について説明させる設問（「磁鉄鉱と赤鉄鉱は、スウェーデン経済にとってこれまででも、そして今も大きな意味を持っています。鉱物が何を含み、何に使用されているかを調べ、大きな経済的重要性を説明してください。」）がある。</li> <li>・「地球、地形、風景」の章「地球の構造」（本文 54-74 頁）で自然発生による地盤沈下の仕組みを説明しているが、人為的要因による地盤の変化は記載していない。 →人為的要因による地盤の亀裂や沈下について考察する。</li> <li>・どこで採掘されるのか？ →地図で鉱山と都市の位置を調べるきっかけになる。</li> <li>・どのように採掘されるのか？ →単に採掘方法だけではなく加工や輸送方法も知る。</li> </ul>
2 都市計画	キルナの都市計画はどのようなものですか？新しい都市はどのように計画されるべきですか？新都市計画の提案はどのように考えますか。どの建物を保存して移動する必要がありますか？	K「都市」 ・都市計画のパターン ・都市が形成される過程と要因 ・都市の機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「都市」の章（本文 284-313 頁）で都市計画のパターンや歴史について記載している。章末尾の設問（314 頁）においても、都市計画と人々の生活の関わりについて考察させている。 →教科書本文で学んだ知識から何を選ぶのかによって回答も多様化する。</li> <li>・キルナの都市計画はどのようなものか？ →既存の市街地ができた成り立ちを調べる。 →疑問点や課題点などが浮かんで考察させる。</li> <li>・新しい都市はどのように計画されるべきか？ →考察した既存都市への課題を自分なりに考察する。 →都市計画について具体的に考察する力が身に付く。</li> <li>・どの建物を保存して移動するべきか？ →既存の都市に必要なもの、不足しているものは何かを考えたり、その建物が何に必要なのかを考えたりするきっかけになる。 →建物の配置などを考えるきっかけにもなる。 →キルナ市民の生活スタイルの考察にも繋がる。</li> </ul>
3 インフラ	地盤の変化によってさまざまなタイプのインフラストラクチャはどのように影響を受けますか？都市が移転した場合、新しいインフラストラクチャにどのような投資を行う必要がありますか？	I「輸送と貿易」 ・インフラ拡大の歴史 ・インフラの種類と各役割 ・情報の拡散と技術の拡散 ・インフラの拡大により発展する都市と人々の生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「輸送と貿易」の章の一部（本文 248-258 頁）でインフラの普及と拡大の重要性や、各インフラの役割について記載している。例えば、インフラによる情報の拡散パターンとコミュニティの関係性や、インフラの拡大とともに都市も拡大していくことを説明している。 →教科書本文で学んだ知識を事例の都市に適用して考察させている。</li> <li>・地盤の変化によってさまざまなタイプのインフラストラクチャはどのように影響を受けますか？ →どのインフラが都市のどの部分に影響しているのかを考察させる。</li> <li>・都市が移転した場合、新しいインフラストラクチャにどのような投資を行う必要がありますか？ →どのインフラが何に必要とされているか、事例の都市に必要なインフラについて先を見据えて多角的に考察させる。</li> <li>・前の設問で考えた生活スタイルにはどのインフラが適切かを考察させている。</li> <li>・道路をどのように作る必要があるのか、都市を維持するためにどのような工夫が必要であるかなどを、インフラを地理的条件と合わせて考察させている。例えば、数年後に地盤沈下の恐れがある場所を考慮するなど。</li> </ul>

分野	設問文	教科書本文中で 関連する内容	設問の考察
4 法律	土地を償還し、建築許可などのさまざまな種類の許可を取得するのはどれほど難しいですか？	L「地域とコミュニティ計画」 ・計画建築法 ・都市計画マスタープラン ・建物変更に必要な許可や方法	・「地域とコミュニティの計画」の章の一部（本文 328-331 頁）では、都市計画において必要な各種の法律や申請許可について、概要と許可を得る過程を記載している。地方自治体が決定するものや、国連や EU が決定に影響するものなどレベル別に説明している。 →事例で実践的に必要な制度について調べる必要がある。 →それぞれの許可を得るにはどれくらいの時間を要するのか、どのような団体が関わっているのか、市民はどのように携わるのかを調べる。 →自身はどの段階で都市計画に関わっていくのかを考えるきっかけになる。
5 気象学	キルナの新しいセンターを計画する際に考慮すべき考慮事項は何ですか？	C「地球、地形、気候」 E「天気、気候、植生」 ・特有の地形がもたらした景観 ・気候と生活の関わり	・「地球、地形、気候」の章（本文 52-104 頁）、「天気、気候、植生」の章（本文 140-172 頁）で、人々の生活における自然環境の重要性を説明している。 →これまでの設問で考察したことを踏まえて、事例の地域の土地性と人々の暮らしを考察させている。
6 財政	移動費用はいくらかかりますか？移動費用は誰が負担しますか？		・これまでの設問を踏まえて各分野でかかる費用を調べる必要がある。 →インフラの整備や人件費など、各分野を総合的に考察して回答させる。 →多角的に都市を考察する力が身につく。 ・費用は誰が負担しますか？ →自治体や国の予算について調べるきっかけになる。
7 技術	大きな建物をどう動かしますか？他の場所でも同様の動きはありましたか？		・建物を動かすための費用や時間を調べたり、移動経路を考えたりする。 →都市の立地についてより深く検討するきっかけになる。 ・他地域の事例を調べることで、建物を移動するに至ったさまざまな理由や土地性を知るきっかけになる。 →より多角的に都市の移転について考察できる。
8 人口	住民は移転についてどう思いますか？移転は必要ですか？キルナの新しいセンターの指定エリアは適切に選択されていますか？代わりの場所がありますか？	D「人口」 ・人口移動と都市形成の関係と歴史 ・通勤と都市の関係	・「人口」の章の一部（本文 122-138 頁）で、人口移動と都市形成の関係性について記載している。 →都市の移転に際した住民の労働環境の変化についても考察させる。 ・これまでの設問で考察したことを全て考慮した上で、 <u>住民は都市移転に関してどう思うかを考察する必要がある</u> 。 →都市計画では多様な意見が存在し、 <u>多角的な視野を持つ必要がある</u> ことがわかる。 ・移転は必要ですか？エリアは適切に選択されていますか？代わりの場所がありますか？ →都市移転に際して慎重に検討することが不可欠であることや、 <u>適切な判断を行うことの複雑さを理解</u> させる。

計画が市議会で決議されたものの住民からの反対が強く、2015年に移転先の土地を変更して移転計画が確定し、2035年に移転が完成する予定である。現在その移転作業中であり、現在進行中の地理的課題から、生徒に考える機会を提供するものとなっている。

各設問内容を Table 3 に示す。設問は、地質学、

都市計画、財政、技術などの多岐にわたる分野に関連する内容になっており、それぞれ教科書の各章で学んだ知識を実践的に活用して考察させている。特にシティズンシップ力の向上に寄与していると考察した部分には下線を引いた。また、各設問で教科書本文の内容に関連している箇所については、Table 1 に示した各章のキーワードを太字で表している。



### 3-2. 学習内容の確認をする設問

1問目の「鉄鉱石はどこでどのように採掘されますか？なぜ亀裂や沈下が発生するのですか？」は、C章「地球、地形、風景」を参考に考察できる。C章の本文では、自然発生による地盤の沈下や亀裂の仕組みを図や専門用語を使って説明しており、地震や地滑りなどの人々の暮らしへの影響についても写真（Fig. 1）を用いて説明している。C章で学ぶ地盤の変化による都市や住環境への影響を用いて説明した上で、本設問では自然発生ではなく人為的な要因による地盤の変化について考察させている。



Fig. 1 Pictures of actual land subsidence

2問目の「キルナの都市計画はどのようなものですか？新しい都市はどのように計画されるべきですか？新都市計画の提案はどのように考えますか？どの建物を保存して移動する必要がありますか？」という都市計画に関する設問では、K章「都市」の章で学んだ都市計画の歴史や世界各都市の都市計画のパターンなどの知識から、鉦山都市キルナの事例に合うものを自身で選びながら考察することができる。「都市」の章の本文では、スラム街の増加と課題、工業化に伴う都市計画の変遷、都市における人々の移動、放射状・グリッド・格子状・有機パターンの市街地形成などについて、図や写真を掲載しながら説明している。（Fig. 2）キルナの都市移転の際にはどのように街区を計画したら良いのか、どの建物を保存すべきなのかなどを、教科書の本文で学んだ専門的な知識から各自が選んで考察を深めることができるため、回答が多様化する。

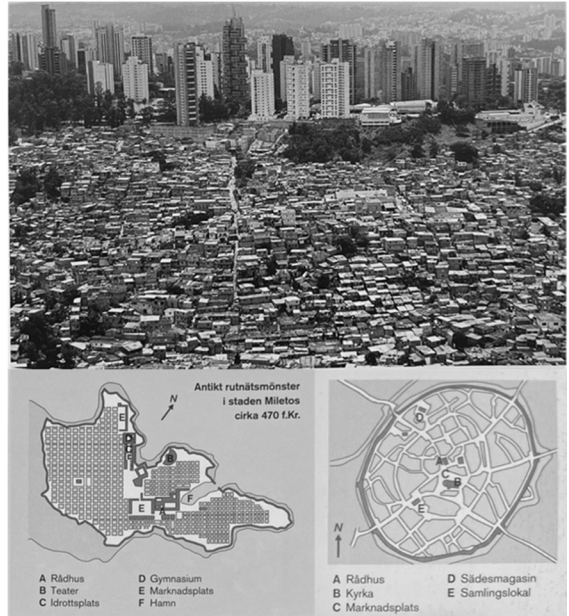


Fig. 2 Pictures of slums and plans of urban patterns

### 3-3. 市民としての判断力を培う設問

3問目「地盤の変化によってさまざまなタイプのインフラストラクチャはどのように影響を受けますか？都市が移転した場合、新しいインフラストラクチャにどのような投資を行う必要がありますか？」では、I章「輸送と貿易」でインフラについて説明している内容を参考に考察することができる。I章の本文では、道路や鉄道、サーバー、発電所、水道、通信衛星などの各種インフラが人々の生活を支えていることや、インフラを整備するためには慎重な計画と多額の費用がかかることを説明している。I章で学んだインフラに関する知識を応用して、キルナでは都市のどの部分にどのインフラが必要とされるのかを考えさせる設問となっている。また、設問の「インフラにどのような投資を行う必要があるか」を問うている部分では、実際の都市を対象に先を見据えて多角的に実践的に考える力が養われ、シティズンシップ力を育む設問となっている。どのインフラが必要になるかを考える際には、前の設問で考察した、キルナの新しい都市の在り方や住民の生活スタイルについても活かすことができ、各設問を連携して考察する仕組みになっていることがわかる。

4問目「土地を償還し、建築許可などのさまざまな種類の許可を取得するのはどれほど難しいです

か？」では、L章「地域とコミュニティ計画」で説明している地域計画や土地利用計画に関する箇所からヒントを得ることができる。自治体が新しく土地を取得して大規模な建築物を計画する際などに、土地利用計画や条例に従って計画を公開したり許可を得たりする必要があることが説明されており、本設問に回答するにあたり、実際のキルナの地域計画等を自ら確認する必要がある。さまざまな規定を調べていく中で、都市を移転するには計画だけでどれくらいの手順を踏んでどれくらいの期間を要するかを知ることになる。また、自身が市民としてどの段階でどのように参加できるかを知る機会ともなり、社会参画に対する知識を実践的に深めることもできる。

5問目の「キルナの新しいセンターを計画する際に考慮すべき考慮事項は何ですか？」では、気象学に関連して回答するように指示がされている。教科書本文では、C章「地球、地形、気候」で地盤や土壌の条件と生活の関わりについて、E章「天気、気候、植生」で気象条件や植生について説明している。これらの内容を踏まえて、本設問ではキルナの土地性を把握し、住民の生活やインフラ設備のために考慮すべきことは何かを考察させている。1問目から3問目の設問で考察した、地盤や都市計画やインフラについての知識も活用でき、総合的に知識を応用して考える機会を与えている。

6問目の「移動費用はいくらかかりますか？移動費用は誰が負担しますか？」では、本設問が財政の分野に分けられていることから、都市の移転に際してどれくらい財政に負担がかかるのかを、過去の事例や、これまでの1問目から5問目の設問で調べたことを参考にして考察する機会となる。多角的に都市を考察する力が必要となり、現在の自治体や国の予算についても考えるきっかけとなる可能性があるといえる。

### 3-4. 他都市への応用を促す設問

7問目「大きな建物をどう動かしますか？他の場所でも同様の動きはありましたか？」では、キルナの事例で計画されている建築物の移動について、実際に移動するための経路をどのように選定するのか考える必要がある。2問目で考察した保存すべき建築物と移動方法や3問目で考察したインフラに関する影響などを踏まえて、さらに実践的に考察させている。また、他の都市で行われた事例を調べること

で建築物を移動するさまざまな理由について知る機会になり、キルナだけでなく自身が暮らす地域などの他地域に対する興味も引き出すきっかけとなる。

最後の設問となる8問目の「住民は移転についてどう思いますか？移転は必要ですか？キルナの新しいセンターの指定エリアは適切に選択されていますか？代わりの場所はありますか？」では、D章「人口」の本文で説明している、都市間の人口移動や人口と都市形成の関係性についての知識から発展的に考察することができる。都市の移転に際して住民の労働環境や生活拠点が移転することで、住民は都市移転に対してどのような意見を持つのかを考察させ、キルナの事例のような大規模な計画には多様な意見が存在し得ることや、多角的な視点から都市を考察する機会を与えている。

各設問で教科書の内容を発展して考察する機会を与えており、3、4、6、8問目など都市に対する自身の意見を持たせるようなシティズンシップ力を育む設問も複数見られた。前の設問で考察した事柄を踏まえてさらに総合的に考察をさせるような内容も多く、より多角的な視点で都市計画について考察する力が身につく構造になっている。また、キルナは気候を生かした観光業も盛んなため、J章「観光」で学んだ内容も連携してキルナの都市移転について考察することができる。このように、全ての設問において教科書から得た知識だけでは足りない部分を自ら調べることが必要になるため、この研究課題を通して実践的な調査や考察をする力が身につくと同時に、都市の移転は慎重な検討が必要であることや、都市を移転する過程がいかに複雑であるかを実践的に理解することにつながると言える。

## 4. おわりに

「地理的研究」では、世界各国の事例を用いて教科書で学んだ内容を実践的に活かす練習の機会を与えている。一つの事例課題に対して設問が複数置かれており、設問の内容は教科書の各章に沿って設定されているものがほとんどである。基本的には分野ごとの設問に分かれているが、複数の分野に関する知識を用いて考察させている設問や、前の設問で考察した内容を踏まえてさらに考察させている設問が多く見られた。社会の実例を多角的な視点を持って実践的に考察する機会を与えることで、自立した市民であることの意識が強くなり、シティズンシップ

力の形成に寄与していると言える。

スウェーデンの高等学校地理の教科書は、分野ごとに分かれた章で専門的な知識の説明が多くされており、各章末に本文の知識の確認を行う設問と本文の内容から社会課題を考察させる設問が置かれている。教科書末尾の章「地理的研究」では、教科書で学んだ内容を社会課題に対して実践的に活かす練習の機会を与えている。スウェーデンの高等学校地理教育では、社会を動かす市民の一員であるという意識を持たせることで能動的な社会参画を促す、シティズンシップ教育が活発に取り組まれていると考えられる。学指導要領改訂前の日本の高等学校地理教科書では、教科書の中で答えを確認するだけで答えられる設問が多く、自ら動いて調べたり社会参画を促したりする設問が多いとは言えない。今後もス

ウェーデンの地理教育を参考にして、日本のシティズンシップ教育の可能性を探っていきたい。

#### 参考文献

- 1) 葉袋奈美子, 加藤優子, 水上聡子, 小・中学校における住教育の設問設定に関する研究, 住宅総合研究財団研究論文集 No.35, 2009年
- 2) Bo Andersson ほか:「GEO - geografi för gymnasiet」, Gleerups Utbildning AB, 2008年
- 3) 荒井良雄ほか:「高等学校 新地理A」, 帝国書院, 2020年
- 4) 中山由梨亜, 葉袋奈美子, 高校社会科地理的分野の住教育関連項目におけるシティズンシップ力を育む設問の日典比較, 日本女子大学大学院紀要第28号, 2022年3月